

令和2年7月9日

## 京口門だより NO.81

月初めは梅雨の中、最近は雨が降ると豪雨となるようで、見舞われた地方では大変なことになっていますが、梅雨明けとともに猛暑の訪れを予感します。

「暑き故ものをきちんと並べをる」(細身綾子)

コロナ禍の二次流行が気がかりです。ワクチンが早く実用化できることを期待するばかりです。全世界で一千万人以上の感染が起き、現実の社会では仕事も商売もなかなか思うようにならない有り様です。先日もコロナ感染症と免疫という番組を放送していましたが、きれいな動画は解りやすく感じました。免疫については次々と新しい知識が明らかにされてきて、日進月歩の世界です。

漢方薬を最先端の免疫の知識で研究すると、意外に面白い結果が生れています。いわゆる感染症といわれる病気、たとえば感冒、扁桃炎、インフルエンザ、ハシカ、尿路感染症、皮膚の化膿症など、現代医学では抗生物質や抗ウイルス剤などが用いられる病気は、かつては克服されたと言われることもありました。が、抗生物質に抵抗する細菌、抗ウイルス剤の見つからないウイルス感染症などが現れてきて、細菌やウイルスを死滅させる物質を追いつづけるよりも、われわれ人の病原にたいする抵抗力や防御機能をたかめることが大切であること

に気づいてきました。それがわれわれの免疫の力を明らかにすることにつながってきました。そして免疫にかかわる細胞や物質が次々に見いだされ、われわれがどのような仕組みで細菌やウィルスと闘っているのかがわかってきました。それらはT細胞、B細胞、マクロファージ、ナチュラルキラー細胞(NK細胞)、サイトカインなどなどです。これらは免疫の基本原理である抗原-抗体反応にかかわる重要要素です。

今日までの漢方薬の研究から、漢方薬が直接免疫系を刺激して免疫機能の働きを活発にさせ、感染症を防ぐのに役立っていることが分かってきました。たとえば免疫の中でも重要な働きをするNK細胞を活発にさせる作用があることが、個々の漢方生薬にもまた処方にもあることがわかりました。たとえばインフルエンザに効く漢方薬にはNK細胞を活性化させて病気を治す力があるということです。皮膚の化膿症でも抗生物質を用いなくても漢方薬は早く治すことができます。しかも実験室の中ではうまく働かなくても、生きた体の中ではより強く出てくるようです。漢方薬の力に頼ってほしいと思います。

